

2014年台風第12号および第11号に伴う 大雨による徳島県内の被害状況（速報）

Damage in Tokushima Prefecture by Typhoon No.12 and No.11, 2014.

中野晋

正会員 土木学会水工学委員会・同四国支部合同四国水害調査団団長、徳島大学環境防災研究センター教授

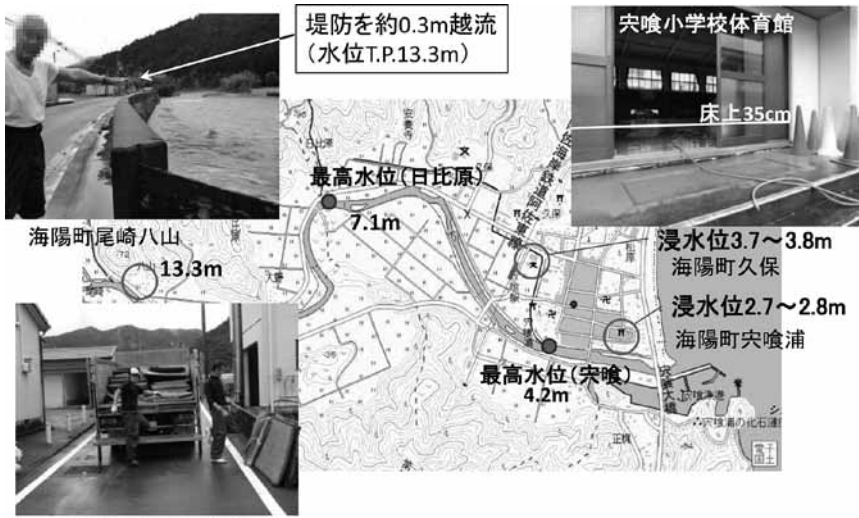


図1 突喰川周辺の浸水状況

2014年8月に相次いで来襲した台風第12号と同第11号では西日本から北日本までの広い範囲で猛烈な大雨となり、全国で6名の死者、約6000棟の浸水被害をもたらした⁽¹⁾。中でも高知県と徳島県では8月1日から10日の間に多いところで2000mmを超える降雨量を記録し、各地で河川氾濫や内水被害が頻発した。土木学会水工学委員会と同四国支部では深刻な

被害状況を鑑み、合同調査団(団員28名、団長・徳島大学中野晋)を結成して、この災害に対する緊急調査を開始した。本稿では徳島県内の被害状況について報告する。

大雨の状況と被害概要

徳島地方気象台⁽²⁾の報告によると、8月1日11時から8月10日24時までの徳島県内での総降水量は上勝町福原旭で1510mm、那賀町木頭で1330mmと県南部を中心に猛烈な雨となったほか、徳島市でも992mmの記録的な大雨となっている。徳島県^(2,3)のまとめによると県内の被害は死者1名、軽傷1名の人的被害と全壊1棟、一部損壊13棟、床上浸水689棟、床下浸水1593棟である。

台風第12号による浸水被害の発生状況

台風第12号では吉野川上流域である高知県中部で1000～1300mm、徳島県南部で600～700mmの雨となり、県西部の吉野川や県南部の海部川、突喰川、福井川、桑野川⁽⁴⁾周辺で浸水被害が発生した。また、美馬市の吉野川河川敷の建設現場で大手建設会社の現場責任者が資材撤去の際に流されて死亡している。阿南市に次いで床上・床下浸水棟数が多かった海陽町突喰地区での調査結果を図1に示す。突喰川の日比原水位局でははん濫危険水位3・10m(T.P.5・53m)を8月2日13時～19時の6時間にわたって超過し、15時50分にはこれを1・5m

NAKANO Susumu

1981年京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻修了、運輸省港湾技術研究所勤務を経て、1987年から徳島大学に勤務。1995年に助教授、2008年に教授昇任。現在は自然災害のリスクマネジメントを中心に研究活動。



上回る4・64m (T. P. 7・07m)の水位を記録した。住家の浸水被害が多かったのは穴喰川河口部の海陽町穴喰浦と同久保で、最大約1mの湛水により、約200棟の床上・床下被害が発生した。穴喰川の水位が高くなり、支流の久保川からの排水ができなくなつたため、内水被害が広がつたとみられる。なお、穴喰での総降水量は690mm、最大時間雨量は112mmである。海陽町穴喰浦での浸水位は2・7、2・8m (T. P.)、海陽町久保での浸水位は3・7、3・8m (T. P.)

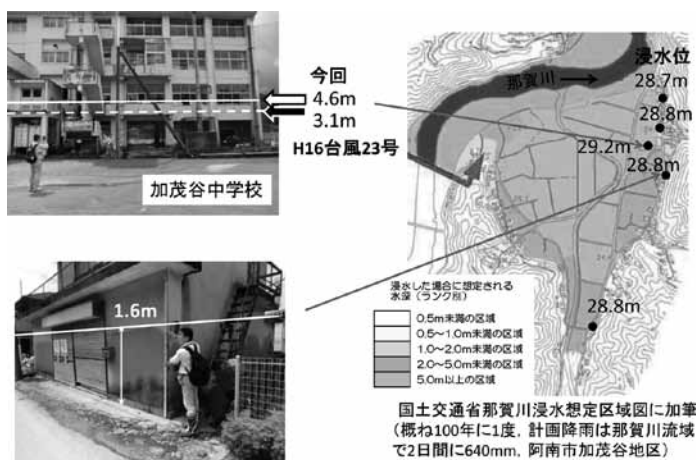


図2 阿南市加茂谷地区での浸水状況

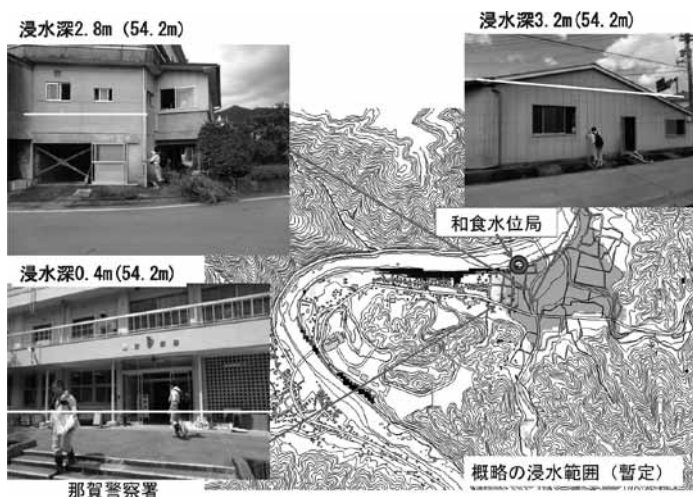


図3 那賀町和食地区での浸水状況

から4・6m (T. P. 29・2m)と2階の教室に達する浸水となった。この中学校は国土交通省が公表している浸水想定区域図では最大浸水深が5m以上のエリアに位置しており、想定外の被害とは言えない。一方、平成16年台風第23号では浸水しなかった山沿いでも最大で1・8mの浸水被害(浸水位としては28・7、28・9mに相当)が発生している。約0・5km下流に設置されている加茂谷水位局での最高水位は8月10日10時にT. P. 26・48mを記録しており、浸水位はこれより2m程度高い。加茂谷地区では堤防整備などの河川整備計画が進行中であるが、本川の無堤部分からの浸水と支流の加茂谷川からの氾濫が加わつたことが浸水原因であると考えられる。

図3は那賀町和食地区の浸水状況である。一部で浸水深は3mを超え、避難の遅れた住民は8月10日の早朝に2階から船で救出される事態も発生した。浸水エリアに近接した和食水位局の記録によると10日10時に54・0mの最高水位を記録しているが、筆者の調査でもこれとほぼ一致する54・1、54・2mの痕跡水位が集落内の多数の地点で確認された。浸水は本川水位の上昇で支流の南川から排水できなくなり、溢水したことが主な要因である。

徳島では2004年の台風第23号以来の10年ぶりの豪雨災害となった。特に台風第11号では深夜から早朝に大雨が降り、避難準備が困難な状況であったが、避難時の遭難などの犠牲が皆無であったことは幸いであった。自治体による防災情報の提供の方法や住民の避難対応行動など、詳細な検証を行うことが大きな課題である。

参考文献

- (1) 消防庁・台風第12号及び台風第11号に伴う大雨等による被害状況等について(第23報)、2014年8月18日、<http://www.fdma.go.jp/bn/2014/detail/868.html>
- (2) 徳島県・大雨(平成26年8月1日から)に関する被害の状況等について(第11報)、2014年8月7日、<http://anshin.pref.tokushima.jp/docs/20140807/00017/>
- (3) 徳島県・台風11号(平成26年8月8日)に関する被害の状況等について(第9報)【訂正有】、2014年8月13日、<http://anshin.pref.tokushima.jp/docs/20140813/00018/>